2017年度学院留学　研究成果概要

種別：学院留学短期

所属・職・氏名　教育学部・湊秋作

研究課題：ニホンヤマネと大陸産ヤマネとの比較研究とヤマネを通した森林保全・環境教育のグローバル的普及＝ヤマネの宇宙開発への応用化も含めて＝

留学期間：2017年3月31日～ 2017年9月21日

留学先：イギリス　ロンドン及びファルマス

People's Trust for Endanger species　及びエクセター大学

イギリスの２ヶ所で学び、野外調査をハンガリー・イタリア・イギリスで行いつつ、論文執筆・本執筆、及び先進的な環境施設の視察などを下記のように実施した。

１．PTES（People's Trust for Endanger species）での学び（ロンドン）

PTESはイギリスの著名な自然保護団体である。

世界の絶滅危惧種生物の保護を目的とする団体で、人々の自然への想いと支援を基に「生物研究」・「生物保護」・「環境保全」・「環境教育」・「世界の研究者支援」・「持続可能な社会成立への活動」などを展開している。ヤマネについては、イギリス国内でのヤマネ減少を多くのボランティアと共に20年間にわたり調べ、イギリス国内とヨーロッパに警鐘をならしている。ハリネズミについては、ロンドンに棲むハリネズミ保護を不動産業者・市民と共に実施していた。私はここでスタッフたちの上記のような活動を知ることで、持続可能な社会を達成するには、多様な人々を「巻き込み・共働きを組むこと」、「経済と環境保全と持続可能性をつなげること」、「目標達成するための10 年・30 年計画を作成すること」・「きれいなデザインのウェブサイトと広報により社会に発信すること」・「都市の生物多様性を保全すること」・「運営技術を磨くこと」等の重要性を学んだ。

２．エクセター大学（イギリス南西部）

エクセター大学は、イギリス南西部のコーンウォール地方にあり、イギリスでも有名で、入学困難な大学の一つである。

私はその大学の「環境と持続可能性研究所」に在籍した。そこは世界27ヶ国の人々が集う研究所で、インド・チリ・バングラディシュ・スペイン・フランス・ギリシャ・ポーランドなどの学生や教員・社会人がいくつもの研究プロジェクトを展開していた。そして、各国からやってきた研究者はそれぞれの限られた期間に懸命に研究を実施していた。その中で、私は「国際的に動くこと」・「グローバルで共働きすること」・「研究実施する上での集中性」、そして、「持続可能な地球社会を創ること」の重要性を学んだ。

３．野外調査

（１）ハンガリー・イタリア調査　5月12日～5月21日

１）バーツ市（ブタペストの北約 30 ㎞）での調査

オオヤマネ・モリヤマネ・ヨーロッパヤマネの棲む森で巣箱調査と安定同位体のサンプル採集調査を行った。巣箱調査ではヤマネの捕獲はできなかったが、安定同位体分析用の植物・動物サンプルを採集した。

２）イタリアアルプス（トリノの北部）

トリノ大学のベルトリーノ博士と共にメガネヤマネと小型哺乳類の調査を行った。メガネヤマネ、ヤチネズミ類を捕獲した。安定同位体分析用の植物・動物サンプルを採集した。

（２）イタリア調査（トリノ北部）　　7 月 9 日～7 月 15 日

トリノ大学のベルトリーノ博士と共にメガネヤマネと小型哺乳類の調査を行った。メガネヤマネ、ヤチネズミ類を捕獲した。安定同位体分析用の植物・動物サンプルを採集した。

（３）イギリス調査(ワイト島)　9 月 7 日～9 月 9 日

元ロンドン大学モリス博士と共にイギリス南部のワイト島で、ヨーロッパヤマネの巣箱調査を行った。ヨーロッパヤマネを捕獲し、安定同位体分析用の植物・動物サンプルを採集した。私たちにより提供した設計図を基に建設されたアニマルパスウェイを視察した

＊上記の安定同位体サンプルは 2018 年度京都大学で分析し、論文とする予定

４．論文のためのデータ整理作業

ヤマネの教育・安定同位体・アニマルパスウェイに関する論文化作業を行った

2018 年度に投稿予定

５．本の執筆作業

（１）アニマルパスウェイの本を 2018 年月に出版した。

（２）ヤマネの学術本

2018 年夏に出版予定

６．環境保全・環境教育施設視察（2018 年 4 月 2 日と 5 日）

RSPB（野鳥保護団体）の施設とイギリス動物センター及びハビタットブリッジをモリス博士の案内で視察した。市民への先進的な自然保護と環境教育を学んだ。

＊国際ヤマネ会議（2017 年 9 月 11 日～16 日、ベルギーにて）

アニマルパスウェイと安定同位体についての発表を行った。ヤマネを宇宙に上げることを行っているロシアの共同研究者も発表を行った。

７．まとめ

ニホンヤマネと大陸のハンガリー・イタリア・イギリス産のヤマネと比較するための安定同位体のサンプルを得ることができ、比較研究を進めることができた。私たちが開発したアニマルパスウェイがイギリスに普及していることを確認した。SDGs 及び環境教育・保全の理念・方法を学ぶことができた。

８．今後の方向性

これからの地球社会のキーワードであるグローバルな「生物多様性」・「持続可能性」・「SDGｓ」の推進を関西学院大学として、教育学部の教員として、国内外の共同研究者と共に市民・行政・企業・学生を巻き込みながら地道に展開していく。